

No.	16-4-2	場所	豊丘村河野	次世代への継承キーワード
名称	雨が止んで、畳やむしろを干す民家			災害現象理解
災害現象	家屋の被災			河川 寺沢川
補足事項				支流

概要

本来は梅雨の盛りのはずだが、田植えどころか水田の代かきもできないほど、春先からの少雨で水枯れの状態が続いた1961年（昭和36年）6月。ところが、23日夜から降り出した雨は「お湿り」どころか徐々に勢いを増し、下伊那郡豊丘村でも雨水を吸い込んだ山肌の土砂が部分的に大きな被害をもたらした。

中でも、県道伊那生田飯田線から4キロほど東側の山あいにあった河野地区の二丁集落では、27日午後の山崩れをきっかけに電灯が消え、村からの情報も途絶えた。土砂交じりで濁流と化した間沢川は、一晩の間に農地を根こそぎ飲み込み、川べりの幹線道路を全てえぐり取ってしまった。

●体験談：災害当時、豊丘村豊丘中学校2年生

戸間口の戸は一本のこったきりで、あとはみんな流れていってしまった。お風呂おけまでも流れていってしまった。北側につんであった焚物までだいぶぶん流れていった。残った焚物は砂とどろといっしょになって家に中に入っていた。障子もどろがついていてとてもきたなかった。畳の上にも水がついたそうで、畳がくさったようになっていた。まあなんともいえないような姿だった。

（中略）

私たちは着る物のどろだらけになっているものなどの洗たくもした。家の回りにあった土が河原にほんの小さな山のようなになった。家の前でもあった畑も土でうずまってしまって、ずーっと松川町のほうが見とおせるようになった。

（「濁流の子」p.136より）

記録



雨がやみ、畳やむしろを干す民家

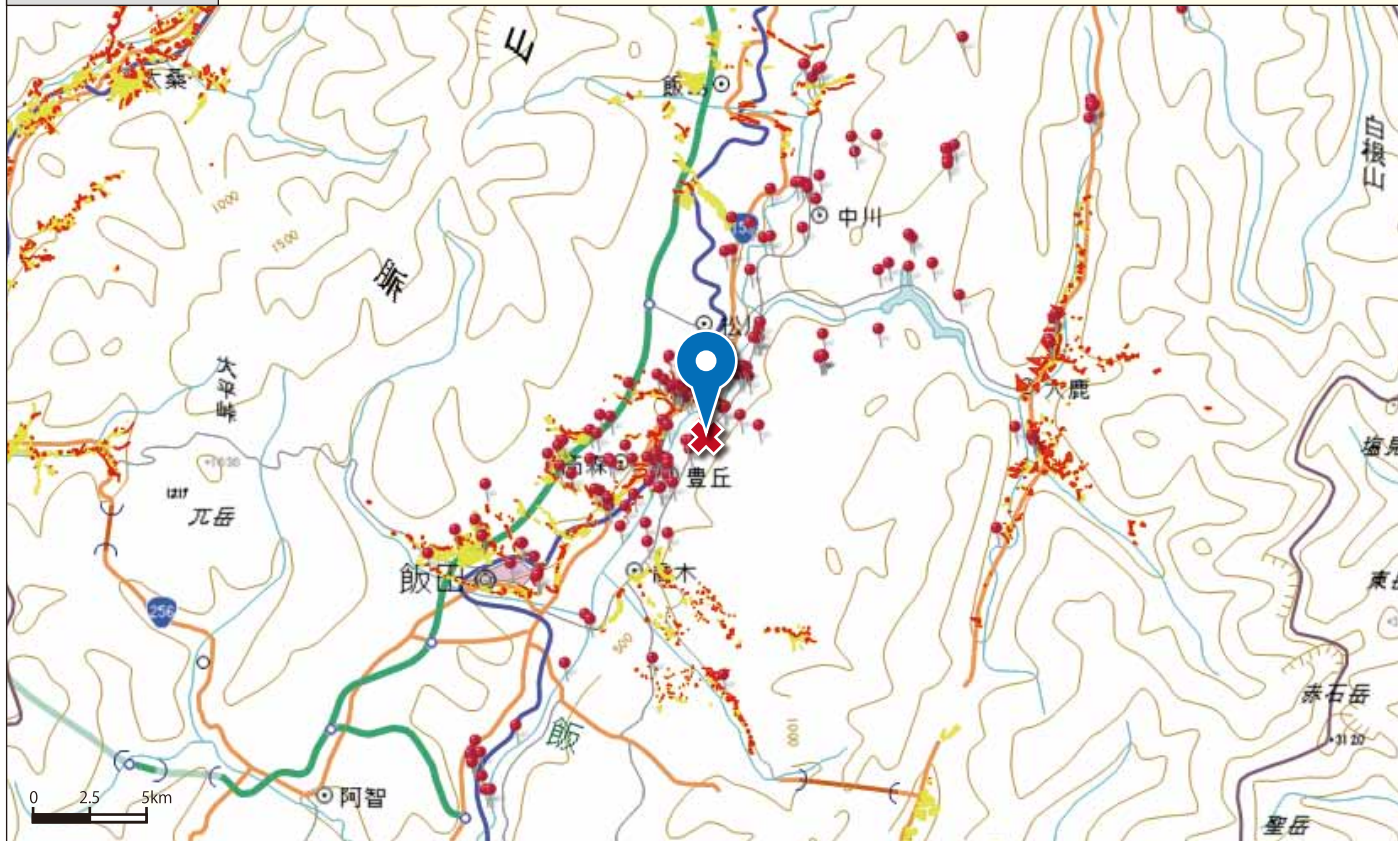
出典 「濁流の子」p.136

備考

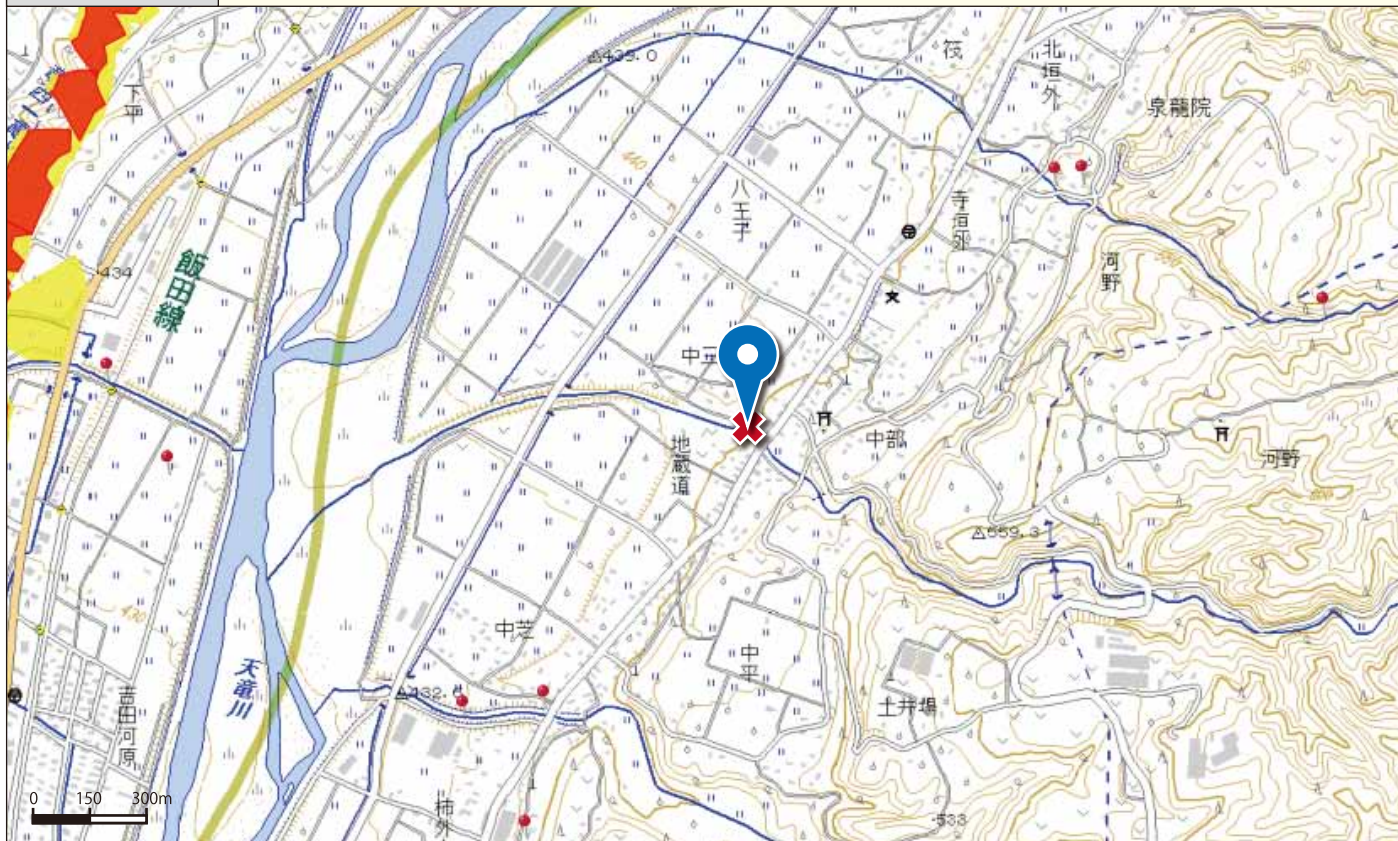
No.	16-4-2	場所	豊丘村河野	緯度	35.561856
-----	--------	----	-------	----	-----------

名称	雨が止んで、畳やむしろを干す民家	経度	137.906265
----	------------------	----	------------

地図	広域図
----	-----



地図	詳細図
----	-----



備考	上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通用：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。
----	---